

平成18年度科学技術振興調整費  
「女性研究者育成モデル事業支援」

# 女性研究者 マルチキャリアパス支援モデル

VOL. 2

日本女子大学 理学部・理学研究科



JAPAN  
WOMEN'S  
UNIVERSITY



女性のパワーが科学を、未来を創る



2006-2009



since  
1901



## 総括責任者



日本女子大学は創立以来1世紀余にわたって、総合大学の構想実現に力を尽くしてきました。そして1992年には、長い歴史を持つ家政理学科から、私学の女子大学で最初の理学部が誕生し、数学・物理・化学・生物の各分野から優れた卒業生を輩出し、研究・教育分野はもとより、産業界や報道の世界にも女性リーダーとして幅広い活躍を展開しています。今人類は、地球規模で人智を結集し、次世代の豊かな未来を築くことが求められています。全人教育の基盤にしっかりと支えられた本学の自然科学は、女性の科学的な芽を育み、新世紀の要請に応える実力と体系を備えています。

日本女子大学学長 後藤 祥子

## プロジェクトリーダー



本プロジェクトの目的は「出産・育児と研究活動の両立支援」および「女性研究者の活躍の場の拡大」です。実現に向けて、ユビキタスリサーチによる支援、ヒューマンリソース支援、調査・企画の3つの柱として実施していきます。女性研究者がさまざまな場所で活躍できることを示し、産学連携など就職に結びつける活動を通して女性研究者数の拡大を行います。また、プロジェクトにおける活動を次世代に広げ、科学教室やシンポジウムを開催し、科学の面白さを伝えることで継続的な女性研究者の育成を図ります。

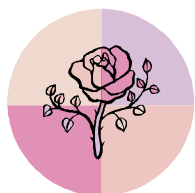
日本女子大学理学部教授  
日本学会協議会 小館 香穂子

## プロジェクト推進室 室長



女性研究者が出産・育児により研究活動を断念あるいは中断することのないよう、支援モデルを提案して進めています。ひとつは出産・育児中の女性研究者に研究補助者をつけ、IT技術を利用して在宅でも実験ができるようにすること、もうひとつは、広い範囲のキャリアパスを示して、選択幅をひろげること、さらに小中高校生に理系の面白さを伝えること、理系女子大学であればこそできるこれらの計画を試み、実際に問題点・課題を解決してゆきます。この試みを成功させ、他の大学・研究機関にまで拡大させて行きたいと思っています。皆様のご支援をよろしくお願いします。

日本女子大学大学院客員教授  
日本学会協議連携会 遠山 嘉一



### 日本女子大学 女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1  
TEL&FAX 03-5981-3417(直通)  
E-mail mcp@fc.jwu.ac.jp

本プロジェクトのホームページが新設されました。  
活動報告や今後の予定についても発信していきますので是非  
ご覧下さい。

<http://momi.jwu.ac.jp/~mcpweb/>  
または <http://www.jwu.ac.jp/mcp/index.html>



# 日本女子大学における女性研究者・技術者の育成

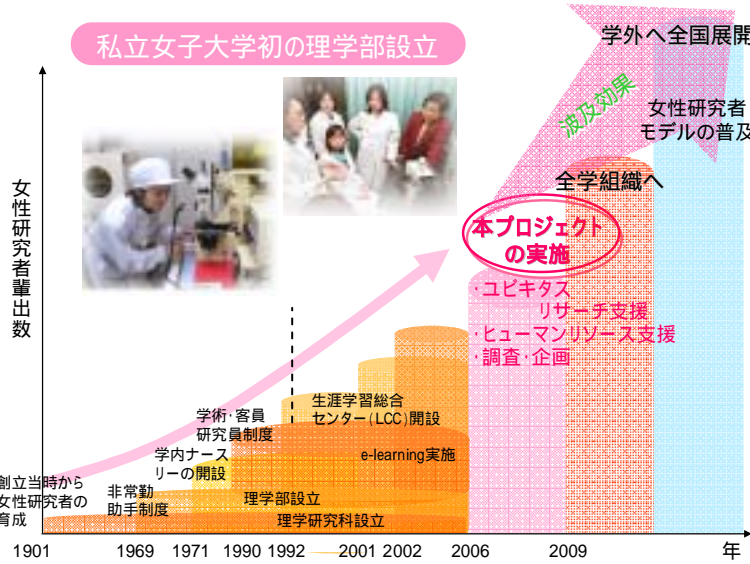


日本女性初の薬学博士  
鈴木ひでる  
(本学)

本学出身者初の農学博士  
丹下ウメ  
(本学/東北大学)



割ぼう着は本学からの提案



理学部設立  
13年間のデータ  
(1992-2005)

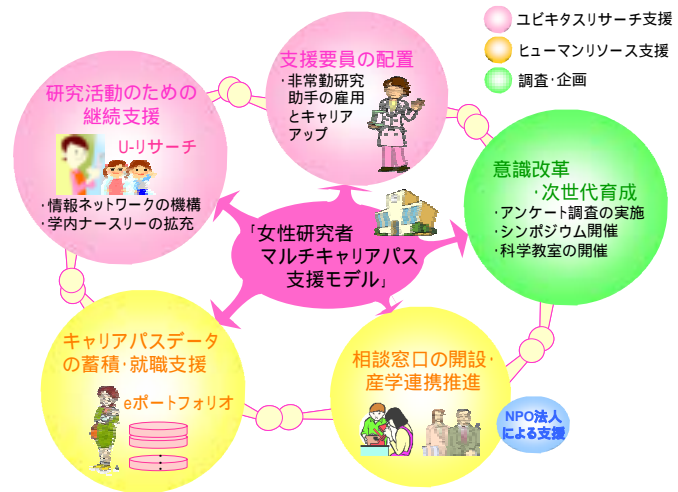
- \* 学部卒業生: 1,734名
- \* 修士卒業生: 144名
- \* 学位取得者: 26名
- \* 主な就職先:  
(株)東芝,  
(株)日立製作所,  
キャノン(株),  
大日本印刷(株),  
富士通(株),  
理化学研究所,  
味の素(株),  
鐘紡(株) 他

## 本プロジェクトの取り組み

本プロジェクトの目的は「出産・育児と研究活動の両立支援」および「女性研究者の活躍の場の拡大」です。実現に向けて、

- ユビキタスリサーチによる支援
- ヒューマンリソース支援
- 次世代女性研究者・技術者育成のための調査・企画

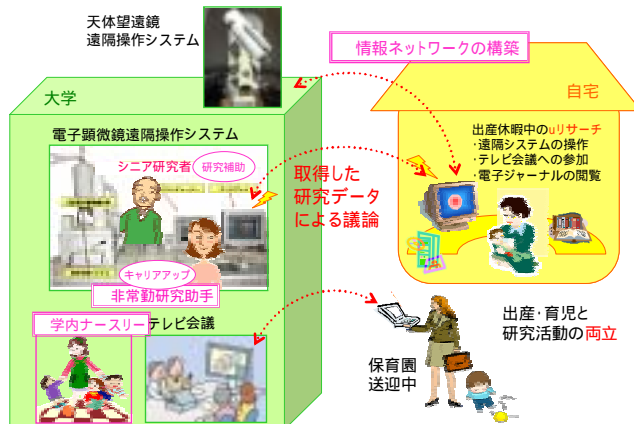
を3つの柱として実施していきます。女性研究者がさまざまな場所で活躍できることを示し、産学連携など就職に結びつける活動を通して女性研究者数の拡大を行います。また、プロジェクトにおける活動を次世代に広げ、科学教室やシンポジウムを開催し、科学の面白さを伝えることで継続的な女性研究者の育成を図ります。



## ユビキタスリサーチ支援

ネットワークやコンピュータ・携帯電話を活用して、いつでもどこでも研究活動を行う環境づくり

出産前・後や育児にかかる期間中に、一時的に大学などの研究現場を離れる場合も、自宅で研究が継続できる

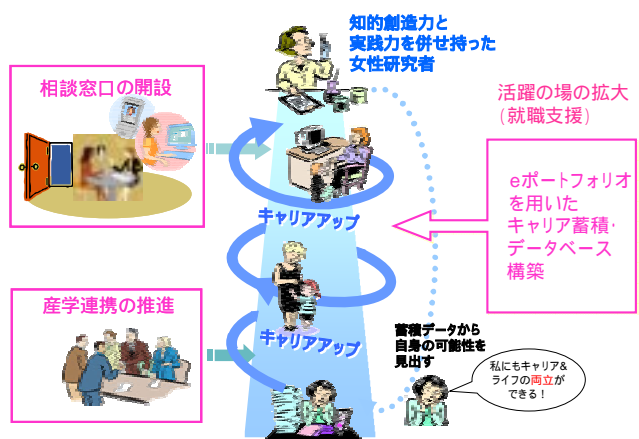


U-リサーチャー・非常勤研究助手 募集開始!

## ヒューマンリソース支援

多様なキャリアを受け入れ、多様なキャリアパスで送り出すための支援

キャリアアップや就職時に必要となる研究者のスキルアップ、研究的ポスト拡大



## これまでの活動



プロジェクトの正式スタートを記念して  
本学で**第1回シンポジウム**を開催！  
(2006.7.15)  
参加者: 380名



### \*プログラム\*

	(敬称略)
開会の辞	総合司会 日本女子大学理学部助教授 今城 尚志
主催者挨拶	日本女子大学理学部研究科委員長 松影 昭夫
プロジェクト紹介	プロジェクト総括責任者、日本女子大学学長 後藤 祥子 プロジェクトリーダー 日本女子大学理学部教授、日本学術会議会員 小館 香椎子
来賓挨拶	
14:30	文部科学省科学技術・学術政策局長 小田 公彦 内閣府男女共同参画局長 名取 はにわ 早稲田大学副総長 堀口 健治
特別講演	
15:00	「多様なキャリアパス、支援しています」 日本学術振興会総務部長 久保 真季
15:30	「これからの女性研究者の活躍のために」 東京大学教授、総合科学技術会議議員 黒田 玲子
講演	
16:00	「育児と仕事、両方続けるための私の10カ条」 日本女子大学理学部助教授 永田 典子
16:30	「双子のママの研究生活一年目」 東京工業大学情報理工学研究所施設研究員 村上 百合 日本女子大学理学部 久保 淑子
閉会の辞	



2006年度 **理学部サマースクール**  
を実施(2006.8.2-11)

参加者: 242名



大学院生もスタッフとして  
積極的に参加しています



### 第2回シンポジウム・オープンラボ開催

日時: 2006年11月25日(土) 11:00~(オープンラボ)  
13:00~(シンポジウム)

場所: 日本女子大学目白キャンパス

成瀬記念講堂(講演会) / 百302, 303会議室(交流会)

企業の採用担当幹部・これまでの卒業生による現状の紹介・  
問題の提示などの講演会が行われます。講演会終了後に参加  
者との交流会を行います。

### 科学教室「インターネット子供教室」

日時: 2006年10月20日(土), 21日(日), 11月18日(土),  
2006年12月16日(土), 2007年3月3日(土)

詳細は[http://lcc.jwu.ac.jp/kouza/jitu\\_kouza/jitukouza2006/an\\_6B07-1.html](http://lcc.jwu.ac.jp/kouza/jitu_kouza/jitukouza2006/an_6B07-1.html)をご覧ください。

## 先輩からのメッセージ

### 経験のリアリティが子供によい影響を

塚田由紀(新制第44回生(物理系))

現職: 独立行政法人交通安全環境研究所交通安全環境技官



私の専門は視覚で、自動車や航空の灯火に関する研究をしています。空港や車検場の現場ではヘルメットに作業着姿で実験することもあれば、国際会議ではスーツ姿で日本としての意見を述べることもあります。実際に経験したことは、リアリティを持って伝えることができます。このリアリティが、子供にもきっと良い影響を与えると、2歳の子供を育てながら感じています。このプロジェクトは、次世代を育てる女性にとって、多くの経験を通して、自分の中にテーマをもつことができるチャンスだと応援しています。

### 出産・育児をしながら研究は継続できます

永田典子(新制第42回生(生物系))

現職: 日本女子大学理学部物質生物科学科助教授



大学院博士課程1年の時に結婚、3年の時に妊娠しました。卒業後に就いた仕事は毎年契約更新が必要な期限つきポストで、育児休暇がとれませんでした。でも、案ずるより生むがやすし、無理せずポチポチやっていくことで、結果的に研究を中断することなく自然と仕事が続けられました。育児は1年では終わらない長丁場、今思えばこのやり方が自分に合っていたと思います。

### 安心して研究と育児を両立できます

市川さおり(新制41回生(化学系))

現職: 日本女子大学理学部物質生物科学科助手



教育と研究に携わりながら子育てができたのは、職場の皆さんの多大なご理解と、日本女子大学の保育施設である「さくらナースリー」のお蔭です。職場に保育施設があることで、親子が互いの存在を近く感じながら過ごせる安心感がありました。子育てには大変なこともありますが、その経験は1つも無駄ではなく、次への喜びを増幅させる大事なステップになると私は考えています。今回偶然にもU-リサーチャーになる機会を頂きましたが、今後はより多くの方々に支援の輪が広がることを心から願っています。

### 理学のセンスを活かして弁理士に

長野晴佳(新制第49回生(物理系))

現職: 日立製作所中央研究所知的財産部



弁理士として、新技術の開発を促進し、技術とビジネスの橋渡しをする重要性を痛感しています。

私は様々な製品の仕組みを知りたくて理学部を選択しました。理学的な物の捉え方ができること、また実験の経験等は私の貴重な財産となっております。自分の専門分野を確立する一方で、世の中の動きに興味を持てるバランス感覚を身に付ける上でも、自由な時間を持つことが

できる女子大時代は非常に恵まれた環境であったと思います。

# Topics

## 先導的な女性研究者・技術者の支援モデルの構築

### 全国へ発信

本プロジェクトの発足を記念して、第1回シンポジウムが2006年7月15日(土)桜楓会2号館講堂において開催されました。本学職員、卒業生、大学院生、学生のみならず、外部機関の方々も含めて380名を超える参加者が集まり、補助いすを追加するほどの盛況を呈しました。

「女性研究者マルチキャリアパス支援モデル」プロジェクトおよび第1回シンポジウムに関して、2006年9月5日(火)の朝日新聞(夕刊)に掲載されました。



### 世界へ発信



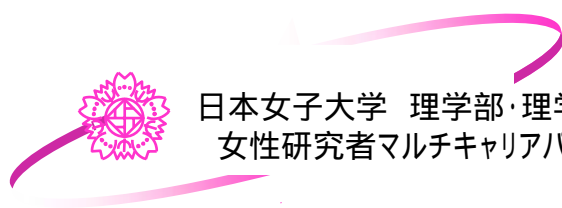
2回目の開催となるSFRI (Steering of Funding Research Institutions)の「女性と科学」関係ワークショップでは、具体的な政策プログラムの紹介、その評価等が議論されました。

日時:平成18年9月28日(木), 29日(金)  
場所:Marriott Hotel (カナダ オンタリオ州オタワ)

ポスターセッションでは日本学術振興会久保真季総務部長、鶴峰麻耶子係長により、「日本における女性研究者の活躍支援」と題し、文部科学省による5つの施策概要と日本女子大学の本プロジェクトの内容を含んだ具体的な取り組み事例の紹介がなされました。

(日本学術振興会より提供)

Field	Targeted ratio by FY2010
Science	20%
Engineering	15%
Agriculture	30%
Medicine	30%



日本女子大学 理学部・理学研究科  
女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト